

福 祉

1 学習指導と評価の改善・充実

専門教科「福祉」においては、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させるとともに、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的能力と態度を育てる学習指導が求められている。

また、「福祉」の学習指導に当たっては、単なる「知識」、「技術」の習得ではなく、問題解決学習を通して、実践能力を育成できるように、生徒一人一人の進歩の状況や良い点等を把握し、適切な評価を行い、個に応じた指導の改善・充実を行っていくことが大切である。そして、これらの評価を通して、教師が指導の過程や方法を見直し、より効果的な指導が行えるよう指導のあり方について工夫・改善を図り、指導と評価の一体化を進めていくことが重要である。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～ 指導と評価の一体化を進める取組～

(1) 評価計画表の作成

ア 作成上の留意点

(ア) 学習指導要領に示す教科の目標と内容から、評価計画を盛り込んだ年間の指導計画を作成し、それに基づいて内容のまとめり（単元など）ごとの指導と評価の計画を作成すること。

(イ) 評価規準の文言は、生徒・保護者にとって分かりやすい表現とすること。

(ウ) 評価計画表に示す具体の評価規準は、学習の実現状況が「おおむね満足できると判断される」状況(B)を基本として作成すること。

(エ) 一人一人の生徒の指導を適切に行うため、「十分満足できると判断される」状況(A)や「努力を要すると判断される」状況(C)の生徒への発展的指導・補足的指導も併せて考えておくこと。

イ 評価計画表の例

科目名	社会福祉基礎			
単元名	社会福祉の担い手と福祉社会への展望			
単元の目標	(1) 福祉社会を創造していくために必要な社会福祉従事者の職種とその専門性について知る。 (2) 相互扶助の精神に基づいた国民一人一人の意識改革の重要性、必要性について理解する。 (3) これからの福祉社会を創造する上で重要な、人権の尊重やノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインなどについて理解する。			
評価の観点	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能・表現	エ 知識・理解
内容のまとめりごとの「社会福祉の担い手と福祉社会への展望」の評価規準	社会福祉の担い手と福祉社会について関心をもち、福祉社会の課題に意欲的に取り組み、豊かな福祉社会の創造	社会福祉の担い手と福祉社会について自ら思考を深め、福祉社会への展望と社会福祉の担い手とのかわりを多面的・多角	社会福祉の担い手と福祉社会に関する様々な資料や情報を適切に選択して活用し、実習・調査・研究等で考察した過程や結	社会福祉の担い手と福祉社会について把握し、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、豊かな福祉社

	を目指した社会福祉の向上を図る態度を身に付けている。	的に考察している。	果をまとめ、図表化した り、発表や討論したりし ている。	会の創造について理解 している。
「社会福祉の担い 手と福祉社会への 展望」の具体的評 価規準	バリアフリーなどについて関心を持ち、福祉社会の実現に向けた課題に意欲的に取り組み、豊かな福祉社会を創造する態度を身に付けている。 ボランティア活動などについて関心を持ち、福祉社会の実現に向けた課題に意欲的に取り組み、豊かな福祉社会を創造する態度を身に付けている。	社会福祉従事者についてのイメージからその専門性について自ら思考を深め、どの職種に当たるかを的確に判断している。 社会福祉従事者としての倫理について自ら思考を深め、社会福祉の創造と社会福祉の担い手とのかわりを多面的・多角的に考察している。	社会福祉従事者の職種とその専門性及びそれぞれのやり甲斐に関する情報を、聞き取り調査・研究等で収集・考察した結果をまとめ、発表している。	相互扶助の精神に基づいた国民一人一人の意識改革の重要性について把握し、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、豊かな福祉社会の創造について理解している。 日本のみならず人類の福祉の実現にかかわる基礎的・基本的な知識を身に付け、グローバルな視点からの豊かな福祉社会の創造について理解している。
学 習 活 動	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能・表現	エ 知識・理解
第1次 社会福祉の担い手 (7時間)		イの (1時間目) ・KJ法 「社会福祉従事者の職種と現状」 イの (6~7時間目) ・グループワーク 「社会福祉従事者の職業倫理」	ウの (2~4時間目) ・聞き取り調査及び発表 「社会福祉専門職の資格及び業務内容と資質」 (施設見学及び聞き取り調査)	エの (5時間目) ・講義 「社会福祉の担い手の動向と確保に関わる問題」
第2次 社会福祉の創造 (6時間)	アの (1~4時間目) ・発表学習 「福祉のまちづくり」 「心のバリアフリー」 アの (5~6時間目) ・レポート 「ボランティア活動の展開」			
第3次 21世紀の福祉社会の展望 (2時間)				エの (1~2時間目) ・学習プリント 「21世紀の福祉社会の展望」

(2) 観点別評価の進め方

ア 考え方

(ア) 「関心・意欲・態度」について

「関心・意欲・態度」における具体的評価規準【アの 】については、二つの発表学習を行う。一つ目の「福祉のまちづくり」では、提示された町の絵におけるバリアを的確に見だし、二つ目の「心のバリアフリー」でも、提示された文章から人間の心におけるバリアを的確に見だし、それぞれバリアフリーにするための考察とその結果が論理的に学習プリントに記述されていて積極的に発表していることが認められる場合は、「十分満足できると判断される」状況(以下(A)と表記する)と評価する。また、ほとんどバリアを見いだせず、学習プリントへの記述も不十分で、発表も自分が当てられた時以外は積極的にしようとしなないという場合を、「努

力を要すると判断される状況」(以下(C)と表記する)とする。(C)と評価される生徒への指導の手だてとしては、どこにバリアがあるのか、また、それをどのように改善したらよいのか、ヒントを与えつつ一緒に考えるようにしたり、他の生徒が発表したものを学習プリントに記録させることにより理解を深めさせる。

具体的評価規準【アの 〇】については、自分の体験したボランティアを列挙させるとともに、よりよい福祉社会を創っていくために、自分たちのできるボランティアはどのようなものかを考え、学習プリントに記述する。積極的に授業に参加し、自分たちのできるボランティアとその概要を複数列挙できている場合を(A)とする。また、自分たちのできるボランティアが列挙できず、授業に集中できない場合を(C)とし、(C)と評価される生徒への指導の手だてとしては、介護やコミュニケーション、励ましささえが必要な場面を提示し、それぞれどのようなことができるか、ヒントを与えつつ、必要なボランティアとその中身についても考えさせ、レポート用紙に記述させる。

(イ) 「思考・判断」について

「思考・判断」における具体的評価規準【イの 〇】については、KJ法を使ったグループ学習で社会福祉従事者のイメージを挙げさせ分類し、その分類したイメージに当てはまる職種を各種結び付け学習プリントにまとめる。その後、各自でそれぞれのグループ化したイメージとその職種がなぜ結び付くのかという理由を学習プリントに記述する。イメージのグループ化とそれに対する職種の結び付け及び理由付けが的確である場合を(A)と評価する。イメージのグループ化とそれに対する職種の結び付けがほとんどなされておらず、理由付けもできていない場合を(C)とする。(C)と評価される生徒への指導の手だてとしては、教科書等にある社会福祉専門職及び関連専門職についての一覧表の主な業務内容を参考に、グループ化したイメージのどれに当てはまるかを考察させる。

具体的評価規準【イの 〇】については、介護者の間違っただけの声かけや問題のある行動が記述されている文章を読んで、その文章に書かれている介護者の言動・行動について、グループディスカッションを行い、介護者として適切でない例を見だし、なぜ適切でないのかを理由付けするとともに、改善の方策を各自の学習プリントに記述する。介護者としての適切でない例に該当する場面が正しく選択されており、理由付け、改善の方策とともに的確に記述されている場合を(A)とする。適切でない例の場面をほとんど見いだせず、理由付け及び改善策の記述が十分でない場合を(C)とする。(C)と評価される生徒への指導の手だてとしては、文章の場面をロールプレイさせるなどして、実際に利用者の立場になった時に、どう感じるかを疑似体験させ理解を促す。

(ウ) 「技能・表現」について

「技能・表現」における具体的評価規準【ウの 〇】については、【イの 〇】における学習を基にして、実際に地域の社会福祉施設に見学に行き、社会福祉専門職の資格及び業務内容と資質を中心に聞き取り調査を実施し、レポート作成及びそれに基づく発表学習を行う。(詳細は本編イの(ア)(イ)の具体例参照)。

(I) 「知識・理解」

「知識・理解」における具体の評価規準【エの】については、講義式の授業を行い、社会福祉を担う人材の現状と今後の見通し等について説明し、学習プリントに必要な部分を記述させる。学習プリントに必要な事項が色分けされながらすべて記入されている場合は、(A)と評価する。学習プリントがほとんど埋められていない場合を(C)とする。(C)と評価される生徒への指導の手だてとしては、机間巡視を行い、意識の集中を保たせつつ記入させたり、教科書をよく読ませて、学習プリントの必要なところを補充させる。

具体の評価規準【エの】については、教科書を利用した調べ学習を行う。学習プリントの必要なところをすべて調べて埋められている場合は、(A)と評価する。学習プリントがほとんど埋められていない場合を(C)とする。(C)と評価される生徒への指導の手だてとしては、机間巡視を行い、意識の集中を保たせつつ記入させたり、再度教科書をよく読ませて、学習プリントの必要なところを補充させる。

イ 評価方法の具体例

(ア) ワークシートによる評価方法

具体の評価規準	「十分満足できると判断される」状況(A)	「努力を要すると判断される」状況(C)及び(C)と評価される生徒への指導の手だて
社会福祉従事者の職種とその専門性及びそれぞれのやり甲斐に関する情報を、聞き取り調査・研究等で収集・考察した結果をまとめ、発表している。	複数の社会福祉専門職についての聞き取りとレポート作成ができており、それに基づいた発表と質疑応答がしっかりとできている。	複数の社会福祉専門職について聞き取りをしておらず、レポート作成、発表ともに不十分な場合。 教科書等にある社会福祉専門職及び関連専門職についての一覧表から、見学をした施設の職員として該当する専門職を選ばせ、必要な資格、業務内容、おもな職場等をまとめワークシートにまとめさせる。

(イ) ワークシートの具体例

社会福祉施設見学及び聞き取り調査レポート

1 社会福祉施設の現場を訪問し、次の項目について各自で調べ、まとめなさい。

施設名・種別	社会福祉法人 つばさ会 つばさ福祉園(特別養護老人ホーム)
職員の職種	施設長 事務長 事務員 介護職員 生活相談員 看護師 作業療法士 管理栄養士 調理師 清掃員
利用者の概要	入所者50名 平均年齢82歳 体に何らかの障害を持っている人が多い
サービス内容	生活支援全般 レクリエーション 趣味のサークル(カラオケ・俳句・将棋など)

2 職員の方からお話を伺い、次の項目についてまとめなさい。

氏名・職種	沢田 明日美さん 作業療法士
この仕事を選んだ理由	子どもの頃交通事故で怪我をした時、リハビリテーションをしてくれた方の印象が強く、私も人に勇気とやる気を与えられる人になりたいと考えたから
仕事の魅力	少しでも目標に近づいた時、利用者の方の笑顔が見られること
必要な資質	笑顔、根気、やる気
今後の目標	沢田さんとなら一緒に頑張れると思ってもらえるような、誰からも信頼される作業療法士が目標

(その他の職員の事例については省略)

3 施設の中であなたができることは何かありましたか。
部屋で1人でぼつんとしていた利用者の方とお話をすること。

4 施設見学時の自己評価をしなさい。
(5 大変良い 4 良い 3 普通 2 悪い 1 大変悪い)
理由 施設に行くのが初めてで、とても興味があつたので、真剣に話を聞いた。もっと積極的に質問した方が良かったかも。

5 施設見学を終えての感想を記入しなさい。
若い人がたくさん働いていて、元気のいい職場の雰囲気だった。利用者のことを大切にしている様子が、職員の方々が手作りしたベッド周りのかわいらしい飾りから伝わってきた。
今回は利用者の方々とも交流して、施設での生活を楽しんでいるのか聞いてみたい。

(ウ) テストによる評価方法

	具 体 の 評 価 規 準	評 価 基 準	
		「十分満足できると判断される」状況(A)	「努力を要すると判断される」状況(C)
設問 1	事例を読みとり、どのような専門職による支援が必要かを多面的・多角的に考察し、適切に判断することができる知識を身に付ける。〔知識・理解〕	事例に関わる社会福祉の専門職についての知識を身に付け、適切な判断と理由付けがなされている。	事例の内容から専門職名を答えることができない。
設問 2	社会福祉従事者として必要な職業倫理について自ら思考を深め、実際に事例と照らし合わせ、適切な判断ができる。〔思考・判断〕	社会福祉従事者の職業倫理に基づいた考えによる判断が適切になされている。	職業倫理に基づいた判断がなされていない。
設問 3	心のバリアについて正しく理解し、身近な課題として一人一人の意識改革の重要性について、自分の意見を述べるができる。〔技能・表現〕	心のバリアについての正しい理解がなされ、身近な課題に対して自分の意見が述べられている。	正しい理解がなされず、自分の意見が述べられていない。
設問 4	バリアフリーについて関心を持ち、福祉社会の課題に意欲的に取り組み、豊かな福祉社会を創造する態度を身に付ける。〔関心・意欲・態度〕	様々なバリアについて正しい理解をしたうえで、日常生活において福祉の課題に目を向けている。	バリアについての正しい理解がなされず、日常生活の中のバリアフリーに関心を持たない。

(I) テストの具体例

<p>設問 1 下記の〈事例〉を読み、現在脳梗塞で入院中のAさん(85歳・女性)に対して、退院後どのような専門職のかかわりが必要となるか。3つの職種とその選択理由を答えなさい。(6点配点)</p>			
<p>〈事例〉</p> <p>Aさんは病院での治療・リハビリテーションにより、歩行器での歩行が何とか可能になり、自宅での生活を強く希望されるようになった。Aさんは右マヒの後遺症があるため、家事能力には自信がなく、入浴についても自宅の風呂を使用することは難しい。また、通院や買い物などの外出についても1人では難しい状況にある。近くに住む息子夫婦は仕事を持っており、日中の介護は期待できない。</p>			
<p>〈予想される解答例〉</p>			
必要とされる専門職	選択理由	評価基準による判定例	
訪問介護員	家事援助や入浴介助の必要があるから。(2点)	A	A
介護支援専門員	Aさんのケアプランを作成するため。(2点)	A	
作業療法士	右マヒの後遺症があるから。(1点)	B	
<p>設問 2 訪問介護員として、Bさん(78歳・男性)の家を初めて訪れました。次のような場合、あなたはどのような対応をすべきか答えなさい。(6点配点)</p> <p>(1) 洗濯をしようとしたのに、Bさんのお宅の洗濯機の使い方が良くわからない。</p> <p>(2) 押入に不衛生なゴミがたくさん入っている。</p> <p>(3) Bさんが「昨日から具合が悪い」と言って布団で横になっている。</p>			
<p>〈予想される解答例〉</p>			
(1)	洗濯機の操作が分からないので手で洗濯をした。(1点)	B	C
(2)	不潔なのですぐ捨てる。(0点)	C	
(3)	かわいそうなのでそのまま寝ていてもらう。(0点)	C	
<p>設問 3 心のバリアフリーについて、あなたの身の回りの出来事などをふまえながら、課題となることはどのようなことが述べなさい。(2点配点)</p>			
<p>〈予想される解答例〉</p> <p>実際に、悪口やうわさ話を言ったりもする人も多いので、心のバリアフリーは難しいと思う。(1点)</p>			
<p>設問 4 街の中でバリアフリーだと考える物、事を3つあげ、その理由も答えなさい。(6点配点)</p>			
<p>〈予想される解答例〉</p>			
バリアフリー	そう考える理由	評価基準による判定例	
音楽のなる信号機	音で判断できるから。(1点)	B	A
エレベーター	車椅子でも移動ができるし、私にとっても階段よりも楽。(2点)	A	
広いトイレ	車椅子の人でも、荷物をたくさん持った人にも便利。(2点)	A	

(3) 観点別評価の総括

ア 観点別評価における単元の総括の具体例

観点別評価における単元の総括の具体的方法として、授業時における観点別評価を点数化して、その平均点で総括し、それにテストの観点別評価を加える方法を表1で例示する。まずは授業時に利用した「具体の評価規準」の各規準ごとに、A、B、Cの3段階で評価を行い、「十分満足できる」状況(A)を3点、「おおむね満足できる」状況(B)を2点、「努力を要する」状況(C)を1点として点数化し、各観点別の合計点を各規準の数で除した数値を表2の「観点別評価の分割点の例」に合わせて評価を行う。これが授業での評価の値であり、それにテストでの評価の値を加える。このとき、表3にあるように、両方の評価に違いがある場合はテストでの評価の値の方を優先するように重み付けを行う。その結果算出された単元の総括における評価が、この単元での最終的な評価となる。なお、本事例では各観点間での重み付けは行っていない。

評価方法においては、本事例以外にも様々な考え方や方法があり、教科の特性や学年段階等を考慮して、各学校において工夫することが望まれる。

イ 観点別評価の総括

観点別評価の総括の詳細については、「高等学校教育課程編成・実施の手引(平成16年度版)の「福祉」の2の(3)を参照すること。

表1 単元末の総括の具体例

社会福祉の担い手と福祉社会への展望	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1次		A ----- C	A	B
第2次	A ----- B			
第3次				C
点数化	$(A+B)/2$ $= (3+2)/2$ $= 2.5$	$(A+C)/2$ $= (3+1)/2$ $= 2.0$	$A/1$ $= 3/1$ $= 3.0$	$(B+C)/2$ $= (2+1)/2$ $= 1.5$
授業での評価	B	B	A	C
テストでの評価	A	C	B	A
単元の総括	A	C	B	B

表2 観点別評価の分割点例

$2.5 < A$
$2.0 \quad B \quad 2.5$
$C < 2.0$

表3 「授業での評価」と「テストでの評価」が異なる場合の重み付け例

授業での評価	A	A	B	B	C	C
テストでの評価	B	C	A	C	A	B
単元の総括	B	B	A	C	B	B